

文化ゾーンリノベーションに関する「市の基本的な考え方」

はじめに

築約40年を迎える図書館・中央公民館は、老朽化(設備不具合、バリアフリー未対応等)に加え、時代に即した機能の提供(デジタル化への対応など)が課題となっています。

特に図書館では、誰もが快適に過ごせるスペースの拡充などが、中央公民館では子育て世代やこどもの利用促進などが求められています。また、池や市民ひろば、駐車場といった屋外空間も効果的に活用されていません。

そこで、現在図書館3階にある文化財保存活用課の新庁舎移転を契機に、図書館スペースの有効活用も含めた各施設のリノベーションを計画します。

「市の基本的な考え方」の位置づけ

文化ゾーンのリノベーションを進めるにあたり、本市の基本的な考え方を示すものです。

具体的な施策については、令和8年度策定予定の基本計画において、市民と共に考え、創り上げていく「共創」のプロセスを重視しながら、詳細な検討を進めます。

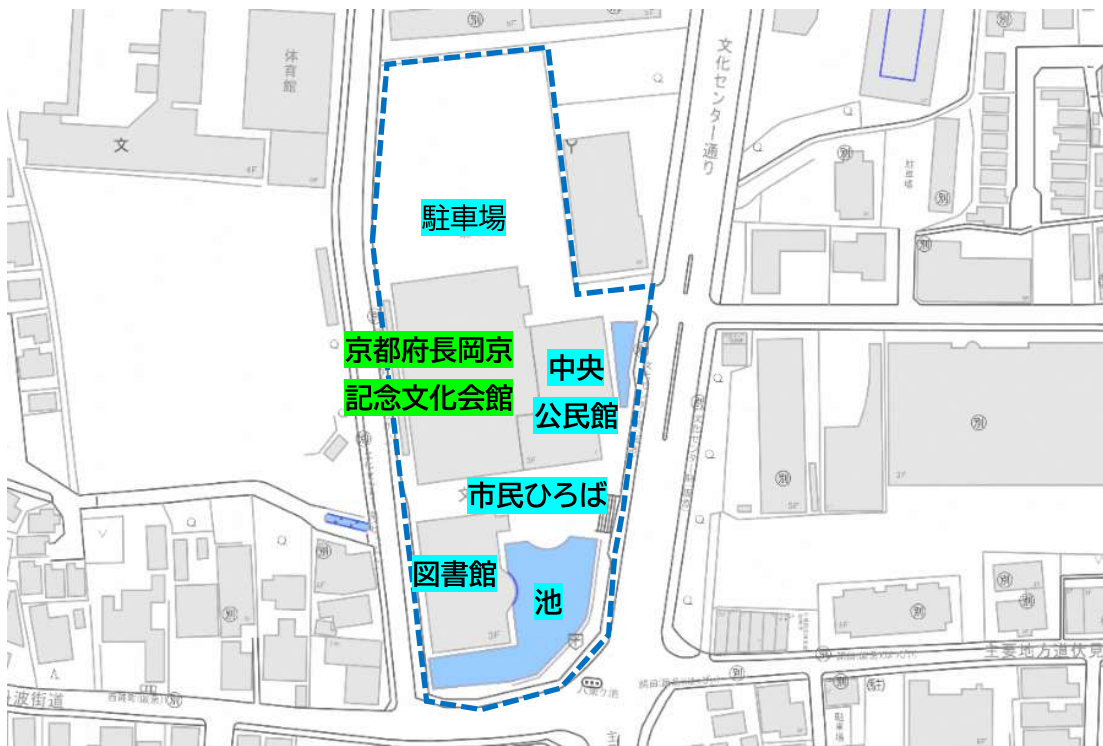
事業の範囲と概況

本事業の範囲

文化ゾーン＝ 図書館、中央公民館、市民ひろば、池、駐車場、 京都府長岡京記念文化会館

本事業の範囲には、文化ゾーンの内、京都府長岡京記念文化会館は対象に含まれません。

しかし、文化ゾーン全体で地域文化振興に寄与するため、京都府とは従来からソフト面での連携による相乗効果向上に努めており、本事業を通じて連携をさらに強化し、ゾーン全体の価値向上を目指します。



文化ゾーンリノベーションに関する「市の基本的な考え方」

施設の概況

(1)敷地概要

所在地	天神四丁目 1 番 1 号
敷地面積	13,323.06 ㎡
用途地域	第 2 種住居地域
建ぺい率／容積率	60％／200％
防火規制	準防火地域
高さ制限	第1種高度地区(15m)

(2)建物概要

	図書館	中央公民館
建築年度	1986 年度	1987 年度
構造(階数)	鉄筋コンクリート造(地上 3 階)	鉄筋コンクリート造(地上3階地下2階)
建築面積	1,045.93 ㎡	3,570 ㎡(長岡京記念文化会館含む)
延床面積	2,801.16 ㎡	3,471 ㎡
その他		長岡京記念文化会館との複合施設

事業の目的

《多様な世代が集い過ごせる「心地よい居場所」の実現》

本事業では、市民の教養と文化の発展の場である図書館、地域文化の振興の場である中央公民館、人が集う交流の場である市民ひろば、これら一帯をリノベーションし、**多様な世代が集い過ごせる「心地よい居場所」**を実現します。

この空間で、誰もが「遊ぶ・学ぶ・楽しむ・出会う・つながる」時間と機会を創出します。

これを前提に、「文化ゾーン」を構成する図書館、中央公民館、市民ひろばなどについて、大規模改修を含めたリノベーションをハードとソフトの両面で進めていきます。

文化ゾーンの将来像

文化ゾーンは、図書館、中央公民館、市民ひろば等が複合・融合し、多世代の市民が交流し、共に活動できる活気あふれる「心地よい居場所」を目指します。

これまでは、個々の施設の魅力は高いものの、相互のつながりが希薄でした。本事業では、各施設が互いに連携し一体的に機能することで相乗効果を生み出し、魅力あふれる文化ゾーンへと転換します。

また、長岡天満宮や長岡公園などの周辺地域との連携を強化し、地域全体の回遊性を高め、新たな賑わいを創出し、市の魅力向上に繋がる価値を創造します。

「文化ゾーン」を構成する図書館、中央公民館、市民ひろば、池や駐車場で目指すことを以下に整理します。

文化ゾーンリノベーションに関する「市の基本的な考え方」

図書館

図書館は、コーヒーを片手に読書を楽しんだり、四季折々の長岡天満宮の美しい景色を眺めながらゆったりと過ごしたり、友達や家族でおしゃべりに花を咲かせたり。訪れる人それぞれが思い思いの時間を過ごせる「心地よい居場所」です。

子どもたちが目を輝かせながら絵本の世界に夢中になったり、大人たちが新しい知識との出会いに心を躍らせたり。そんな瞬間を創出できるよう、本の選書、展示方法、家具、空間デザイン、魅力的なイベント企画など、様々な仕掛けや工夫を凝らします。新しい発見の喜びや、心が弾むような体験、ときには仲間との出会いを通して、特別なひとときを過ごせる、そんな環境づくりを目指します。

資料に関しては、幅広い分野の資料をバランスよく収集し充実を図る一方で、情報の古い本や傷んだ本などを適切に除籍し、蔵書数の見直しを行います。このプロセスによってスペースを確保し、従来の詰め込まれた書架の改善や、空間の有効活用を進めます。また、図書館サービスの面では、現代のニーズに応じたデジタル化を進め、利便性の向上とサービスの効率化を図ります。

空間は、周囲の景観を活かしながら、「静かなエリア」と「ほどよくにぎやかなエリア」をゾーニングし、多様な世代が快適に過ごせる環境を整えます。たとえば、「子どもや親子がのびのびと過ごせるエリア」、「静かに読書や学習ができるエリア」、「開放的でゆっくりくつろげるエリア」、「外の空気に触れリフレッシュできるエリア」「イベントに参加できるエリア」などを設けます。また、飲食可能なスペースも設け、一人でもグループでも、オープンで親しみやすく、気軽に立ち寄れる場所を目指します。

中央公民館

中央公民館では、ひとたび扉を開ければ、吹奏楽の賑やかな音色やヨガのゆったりとしたリズム、気心の知れた仲間との笑い声など、人と人とのつながりが生み出す幸せに包まれます。また、これから何かを始める人にとっても気軽に相談できる人がいる、やさしくて安心できる「心地よい居場所」です。

その役割は、市民が主体となって集い、活動の中での学び合いを通して新たなつながりや創造を生み出す多様な場を提供すること、今日的な課題についての学習機会を提供すること、学習相談や情報の提供を行うこと、この3つを通して市民生活と地域社会の発展の基盤となることです。

この役割をさらに充実させるため、これまでの貸館機能を中心とした団体の利用がさらに増加するよう、設備や備品の更新に加えて諸室の用途の再検討を行い、全世代の多様な利用目的に応えられる設えを整えます。さらに、新たなつながりが生まれるきっかけづくりのため、個人でも気軽に立ち寄って過ごせるロビーなどの空間も充実させます。

また、社会教育・生涯学習事業を推進し、あそびや学びを通して、人が集い、つながりを強めることで新たな学習意欲や発想、創造性を育む土台となれる場所を目指します。子どもたちの創造性を育む講座や現役世代が仕事終わりの時間を活用してスキルアップできる講座、若者が集う音楽やダンスなどの練習の場、シニア世代が趣味や経験を活かして講師となる機会など、市民の「遊ぶ・学ぶ・楽しむ・出会う・つながる」学習機会を提供することで、多様な世代がいつでも立ち寄り、共に成長し、豊かな時間を過ごせる居場所であり続けます。

文化ゾーンリノベーションに関する「市の基本的な考え方」

市民ひろば・池

市民ひろばは、図書館と中央公民館、そして文化ゾーンと周辺環境をつなぎ、誰もが気軽に利用できる公園のような憩いと余白のある「心地よい居場所」です。

安全面への配慮から既存の池は埋め立てし、安心して過ごせる空間へとリノベーションします。これにより図書館と中央公民館の内と外をつなぎ、一体的な空間としての性格を強めます。たとえば、日差しや雨を気にせず過ごせる空間やベンチなどを設けることで、思い思いの時間を過ごせる環境を整えます。図書館で借りた本を屋外で楽しむ親子、待ち合わせをする子ども、飲食しながら談笑するグループなど、多様な利用シーンを想定しています。

前庭としての開放的な空間を整えることで、文化ゾーンと周辺環境との回遊性を高めます。

さらに、ゆったりとした憩いの空間であり、多目的に使える余白も備えたこの広場は、図書館や中央公民館の活動が屋外にも広がるイベントの会場の役割も担い、館内外が一体となった賑わいを創出します。

駐車場

駐車場は、子どもを連れた家族、障がいがある人や高齢者などの幅広い層の市民が、図書館や中央公民館にアクセスするために欠かすことができない施設です。

駐車場不足による周辺道路の渋滞等は、周辺住民や利用者に影響を与えるため、駐車場の有料化を含め、課題解決に向けた対策を検討します。

また駐車場機能に限らず、様々なイベントにも活用できるスペースとしても整備します。

その他

(1)安全・快適な施設環境の整備

既存建物の良さを活かしつつ改修による長寿命化を図り、老朽化設備の更新、ユニバーサルデザインの導入、環境に配慮した施設整備等を実施します。

(2)業務の効率化と利便性の向上

デジタル化を推進し、デジタル技術を活用することで住民の利便性向上と行政サービスの向上を目指します。

(3)工事期間中の図書館・中央公民館の取扱いについて

工事期間中は、現在の図書館・中央公民館を利用することが難しくなります。そのため、図書館は仮設の臨時図書館を開設し、中央公民館は他施設で主要な事業を継続します。

図書館・中央公民館のいずれにおいても社会教育事業を中断することなく提供し、市民サービスの維持に努めます。

今後のスケジュール

本事業は令和12年度中の完了を予定しています。ただし、スケジュールは現時点での想定であり、今後具体的な取り組みを進める中で変更される場合があります。

R8年度	R9年度	R10 年度	R11 年度	R12 年度
基本計画策定	基本設計	実施設計	工事	工事